

第6学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子 16名 女子 17名 計 33名
指導者 吉野 裕子

1 題材 世界の音楽を味わおうⅡ

教材 ◎雅楽「越天楽」(本時主教材)
「越天楽今様」 慈鎮和尚 作詞 日本古謡
◎世界の音楽

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第5学年題材「世界の音楽を味わおうⅠ」において、我が国の音楽の特徴を感じ取り、それらを生かして歌い方を工夫したり、声による世界の音楽や我が国の伝統的な音楽を比較鑑賞したりする活動を通して、それぞれのよさや面白さを味わったりしてきている。さらに、子どもたちは、楽器による多様な音楽の特徴を感じ取って表現したり聴いたりしたいという欲求が高まっている。

そこで、本題材では、楽曲の「旋律」、「楽器の音色」、「リズム」「速度」に着目して、それぞれの音楽の特徴や仕組みを捉え、それらを生かして表現したり鑑賞したりする活動を通して、音楽の特徴やよさを捉えて進んで表現しようとする態度や、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みに着目し、旋律の感じや楽器の音色の特徴を感じ取りながら、曲や演奏のよさなどを見いだしたりする能力や、多様な音楽を比較して聴いたり表現したりする能力を高めることをねらいとして、本題材「世界の音楽を味わおうⅡ」を設定した。

ここでの学習は、音楽の特徴や仕組みを踏まえながらそれらの多様性を感じ取り、よさや美しさを味わいながら聴いたり表現したりする能力を育てる中学校の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

世界の音楽の旋律の感じや楽器の音色などの特徴を感じ取って聴いたり、表現したりする能力を高めるためには、共通点や差異点のある複数の楽曲を聴き比べる活動を通して、それぞれの音楽の特徴や、音楽の仕組みがもたらすよさを感じ取ることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音楽全体にわたって味わって聴く喜びを感じ取れるようにすることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、音楽の特徴や音楽の仕組みがもたらすよさを感じ取ることができるようになるために、楽曲の曲想や我が国の音楽に対するイメージを基に、音楽の特徴や演奏のよさに着目できるような課題設定を行う。

具体的には、まず、雅楽「越天楽」を取り上げる。この楽曲は、数ある雅楽曲の中で最も広く知られており、日本古来の楽曲が醸し出す雅楽の独特な音の響きを味わうのに適している。そこで、ここでは、これまで聴き親しんできたオーケストラの楽器の響きや構成と比較しながら、我が国独自の楽器の音色に注目して聴いたり、楽曲の特徴や演奏の速度などを感じ取ったりして、そのよさや面白さを味わえるようにする。

次に「越天楽今様」を取り上げる。この楽曲は、雅楽「越天楽」の旋律に歌詞を付けた流行歌で、今に残る我が国の最古の歌謡とされている。また、和楽器の響きを模した編曲がなされており、表現を通して我が国に古くから伝わる音楽に親しむことができる。そこで、ここでは、雅楽の独特な旋律の流れを感じ取って、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取って表現を工夫したりする喜びや楽しさを味わうとともに、世界の音楽へと関心を広げていくことができるようにする。

さらに、世界の音楽を鑑賞する。ここで扱う楽曲は、世界各地の代表的な音楽で、特色ある楽器の音色やリズム等が用いられ、それぞれの国や地域が大切にしている音楽文化に触れることができると同時に、そこから違った雰囲気や独特の味わいを感じ取ることができる。そこで、ここでは、我が国の音楽の特徴と比較しながら鑑賞することで、それぞれの違いやよさを感じ取り、生活や文化とのかかわりを感じ取ることの喜びや楽しさを味わえるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取りながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を全体にわたって味わって聴く意欲を高め、共に表現する楽しさを味わいながら音楽とかかわっていかうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 6年組 男子16名 女子17名 計33名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	世界各地の音楽について学習するのは楽しいと思いませんか。 はい (31) いいえ (2)
②	その理由を教えてください。(複数回答) 【「はい」の理由】(複数回答) ・様々な音楽を聴くことができる(10) ・その国の音楽の楽器やリズムなどの特徴を知ることができる(7) ・その国の文化を知ることができる(6) ・外国の音楽に興味がある(6) ・国によって独特の雰囲気がある(6) ・国による音楽の違いに気付くことができる(3) ・国際交流と同じ様に外国の音楽を知るのも楽しい(1) 【「いいえ」の理由】 ・外国の言葉で歌は、何を言っているか分からない。(1) ・つまらない(1)
③	日本や、世界各地の音楽について学習するとき、どのように学習を進めていきますか。(複数回答) ・それぞれの音楽の特徴を比べる(19) ・特徴を見付ける(4) ・外国の音楽の工夫を、日本の音楽で生かしてみる(3) ・その国の歴史、文化と音楽の関わりを知る(3) ・自分のペースで聴く(1) ・無回答(1)
④	日本の音楽の特徴(複数回答) ・和楽器で演奏される(11) ・ゆっくり(10) ・季節や生活と関係がある(5) ・音階(3) ・静か(3) ・やわらかい(3) ・きれい(1) ・さびしい、暗い(3) ・低い(2) ・変化がない(2) ・二部合唱(2) ・打楽器が多い(2) ・管楽器が少ない(1) ・リズムがよい(1) ・地方によって違う(1) ・歴史がある(1) ・歌詞の意味が難しい(1) ・感情によって音の高さが違う(1)
⑤	世界各地の音楽の特徴で知っていること(複数回答) ・ケチャのように言葉だけの音楽がある(12) ・曲想の変化がある(9) ・速い(5) ・明るい、楽しい、面白い(5) ・楽器が多い(4) ・強弱がはっきり(2) ・管楽器(2) ・高い音(2) ・宗教的な音楽(1) ・集団で歌う(1) ・楽器だけの音楽(1) ・踊りの音楽(1) ・日本と真逆の音楽(1)

①, ②から、多くの子どもたちが世界各地の音楽について学習するのは楽しいと感じている。一方、「いいえ」と答えた子どもたちは、言語の違いによる難しさを感じていたり、**楽曲のよさやおもしろさが見いだせなかつたりすることが要因である**と考える。

③から、それぞれの国の音楽の特徴を比べることを挙げている児童が多い。一方、それらのよさや面白さを味わおうとするところまでは至っていない。それは、出会った音楽が音楽の学習だけで終わってしまい、**自分の生活と関連付ける経験が少ないことが要因である**と考える。

④から、日本の音楽の特徴として、曲想や和楽器の音色、音階など、様々な視点で捉えることができている。また、それらの特徴を日本の音楽のよさと感じている児童も多い。一方、日本の音楽の特徴を曲のイメージだけで捉えている児童も多い。これは、**曲のイメージと音楽を形づくっている要素や仕組みを関連付けて聴くことができていることが要因である**と考える。

⑤から、既習曲である「ケチャ」のように言葉だけで表現されている音楽があることを挙げている児童が多い。これは、鑑賞だけでなく、実際に自分たちで日本語による「ケチャ」を演奏しており、より身近な音楽として感じる事ができているからだと考える。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追及Ⅰの過程では、日本の音楽独特の特徴や雰囲気に気付かせ、**楽曲のよさを見いだすことができるようにするために、「なぜ、今まで大切にされてきたのか」と発問し、「雅楽の特徴やよさは何か」という課題を設定する**。また、曲想と音楽の構造との関わりから音楽のよさを捉えることができるようにするために、雅楽とオーケストラを楽器や演奏形態などの観点で比較する活動を設定する。

イ 課題追及Ⅱの過程では、日本に古くから伝わる歌の特徴や雅楽の特徴を感じ取って、**どのように表すか思いや意図をもって演奏をすることができるようにするために、思いや意図に合った表現に必要な技能を身に付けるための課題を設定する**。また、思いや意図に合った表現について見通しをもって活動することができるようにするために、楽器選択や演奏の仕方について話し合い、全体で共有する場を設定し、自分たちの音楽表現に生かすことができるようにする。

ウ 課題追及Ⅲ・まとめの過程では、世界の様々な国の音楽が大切にされてきた理由をそれぞれの国や地域の文化と関連付けて考えることができるようにするために、「その国や地域の人にとって、音楽にどんな意味があったのか」と他者の視点で考えさせる発問をする。

3 目 標

- (1) 旋律、楽器の音色、リズム、速度などを基にそれぞれの楽曲の特徴に気付くことができる。
- ・ 我が国の音楽の特徴に合った歌い方や、演奏の仕方を身に付けて演奏することができる。
- (2) 音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みに着目し、旋律の感じや楽器の音色の特徴を感じ取りながら、曲や演奏のよさなどを見いだすことができる。
- (3) 我が国の伝統音楽や諸外国の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴やよさを捉えた表現になっているか振り返りながら進んで音楽活動に取り組むことができる。

4 指導計画(全6時間)

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	いろいろな楽器の音が出てきて、日本の音楽の雰囲気があるな。	雅楽「越天楽」①(本時)	「雅楽」にはどのような特徴やよさがあるのだろうか。(本時) ○ 西洋のオーケストラと比較しながら鑑賞し、演奏のよさを感じ取る。 ○ 音楽の特徴や、オーケストラとの比較で見いだした演奏のよさをもとに、自分の考えをもつ。	○ 「雅楽のよさは何か」という課題意識をもたせるために、楽曲のイメージやその理由を基に、「現代の音楽と異なる点も多いのに、なぜ今まで大切にされてきたのか」を問う。 ○ 雅楽の特徴やよさを捉えさせるために、オーケストラの演奏形態と比較させ、共通点や差異点から日本ならではのよさを感じることができるようにする。 ○ 「越天楽今様」の特徴を捉えさせるために、雅楽「越天楽」と比較鑑賞して、旋律や歌詞の有無について気付かせる。 ○ 当時の人々が「越天楽今様」をどのように楽しんでいたのか捉えさせるために、歌詞の意味を調べて情景を思い浮かべたり、平安時代の絵巻物の絵図を提示したりする。 ○ 雅楽特有の演奏の仕方(笙、鞆鼓、鉦鼓の響き)を生かして演奏できるようにするために、雅楽「越天楽」の演奏を映像で鑑賞する。 ○ 自分たちで役割を考えて楽器を選択することができるように、雅楽らしい感じを出すための楽器の構成の仕方について話し合い、全体で共有する。 ○ より雅楽らしい感じを表現するために、楽器の演奏の仕方を試す場を設定する。 ○ 楽曲に対する関心を高めるために、曲名やどこの国や地域の音楽であるかは知らせずに聴かせるようにする。 ○ どこの国かを予想させる際に、曲の雰囲気や特徴と関連付けて考えさせるために、音楽を特徴づけているのは何かを問う。 ○ 音楽に対する感じ方や考え方を明確にするために、それらについて言葉で表したり、友達と交流したりするような場を設定する。 ○ 音楽と豊かにかかわっていきけるようにするために、今後の学習や生活とのかかわりという視点をもたせて振り返りをさせるようにする。
課題追求 I	指揮がなくても、合わせるができるのだな。	「越天楽今様」②③④	「雅楽」は、テンポが遅くて、拍が取りづらく音も長い。 ・ 指揮者がいなくても、それぞれの楽器が役割をもって演奏している。	
課題追求 II	ふしが、「越天楽」と似ていて、歌詞がついているな。 歌詞は、美しい情景を表しているのだな。		日本に古くから伝わる歌の雰囲気や特徴に合った歌い方で歌おう。 ○ 雅楽「越天楽」と比較し、旋律や歌詞の有無に着目する。 ○ 歌詞の内容や、歌詞の言葉のリズム(七五調)に気付き、歌詞唱する。 雅楽の特徴を生かして演奏するにはどうすればよいのだろうか。 ○ 雅楽で使われている楽器や、雅楽の演奏の仕方の特徴から、どのような楽器でどのような演奏の仕方ができそうか話し合う。 ○ 楽器分担をして、それぞれの役割を考えながら演奏する。	
課題追求 III	雅楽で使われている楽器の音と似ている音が出る楽器で演奏してみたいな。	楽器による世界の音楽⑤⑥	音をずり上げたり、音と音をつないだりして演奏するとよい。	
	リコーダーは、主旋律を演奏するから他の楽器より目立たせたいな。		ずり上がりや、音のつなげ方に気を付けて演奏しよう。 ○ ずり上がりや、音のつなげ方などの奏法を工夫して演奏する。 ○ 楽器の置き方や所作に気を付けて演奏する。	
	雅楽の雰囲気を出すために、ずり上がりや音をつなげて演奏したいな。		世界各地で大切にされている音楽には、どのような特徴やよさがあるのだろうか。 ○ 使われている楽器について、我が国の楽器の音色や形と比較して聴く。 ○ 曲想を基に演奏される場面を想像する。その国独特の音楽の雰囲気があり、楽器の音色や速さ、リズムなどの特徴がある。	
まとめ	聴いたことのある楽器の音がするけど、同じ楽器なのかな。 どんな場面で演奏される音楽なのかな。 初めて聴く音楽もあったけど、国や地域の文化と関わりがある音楽があるな。 日本の音楽にもよさがあるから、もっと聴いてみたいな。	なぜこれらの音楽は大切にされてきたのだろうか。 ○ それぞれの国の音楽の特徴やよさを基に、これらの音楽が受け継がれてきた理由を話し合う。 ○ 再度鑑賞教材を聴き、まとめをする。 それぞれの音楽がその国の文化に関わりがあるから、大切に引き継がれてきた。 ・ どの国や地域の音楽でも、使われている楽器は管楽器、打楽器、弦楽器であり、その国ならではの形や音色がある。 ・ それぞれの国や地域の文化に関わっている音楽だから大切にされている。 ・ 日本の音楽も大切にしていきたい。		

5 本 時 (1 / 6)

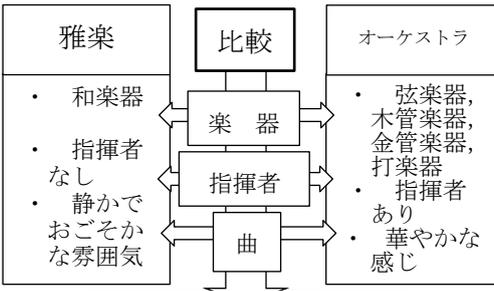
(1) 目 標

我が国の伝統音楽に関心をもち、楽器の音色や演奏形態に着目し、雅楽とオーケストラを比較鑑賞することで楽曲の特徴に気付き、それらの共通点や差異点を基に雅楽の特徴やよさなどを見いだすことができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、「雅楽のよさは何か」という課題意識をもって音楽を聴くことができるようにするために、曲の感じやイメージを基に課題を設定する。また、我が国の伝統的な音楽の特徴やよさを味わうことができるようにするために、雅楽とオーケストラを楽器や演奏形態などの観点で比較させながら、各楽器の役割や我が国の音楽の演奏で大切にされている考えを子どもなりに捉えさせるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ	
課題把握	1 雅楽「越天楽」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 日本の音楽という感じがするな。 	(分) ↑ 8	○ 楽曲に対する疑問や難しさを感じる理由を明確にするために、それらが感じられる音楽の要素や仕組みについて「分かりづらいところや難しいと感じるところが、音楽のどのようなところからくるのか。」と問う。	
	 ゆったりとした感じがするけど、同じ音の繰り返しで、よく分からないな。			
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 「雅楽」にはどのような特徴やよさがあるのだろうか。	✕	○ 「雅楽のよさは何か」という課題意識をもたせるために、楽曲のイメージやその理由を基に、「現代の音楽と異なる点も多いのに、なぜ今まで大切にされてきたのか」を問う。	
	3 雅楽の特徴やよさを、オーケストラとの比較を通して捉える。 		32	○ 雅楽の特徴やよさを捉えさせるために、演奏形態や曲想を観点にオーケストラと比較させ、共通点、差異点に気付くことができるようにする。
	4 音楽の特徴や、オーケストラとの比較で見いだした演奏のよさをもとに、自分の考えをもつ。  オーケストラと比べてみて、指揮者がいなくてもそれぞれの楽器が役割をもって演奏しているところがすごい。  退屈な感じもしたけれど、よさも感じる事ができたし、当時の人々は楽しんで聴いていたのではないかな。			○ 雅楽の楽器の役割に気付かせるために、差異点から「なぜ、指揮者なしで演奏が可能なのか」と問うことで、指揮の役割をしている楽器の存在やその他の楽器の役割に気付かせる。
まとめ	5 本時の学習のまとめをする。 ・ 「雅楽」は、テンポが遅くて、拍が取りづらく音も長い。 ・ 指揮者がいなくても、それぞれの楽器が役割をもって演奏している。	5	○ 音楽だけでなく、服装や所作などからも我が国の伝統や文化を感じ取ることができるようにするために、雅楽の演奏をしている映像を見せ、見付けた特徴にどのような意味があるのか考えさせることで、自分なりによさを捉えることができるようにする。	
		✕	○ 自他の考えの質的な高まりを実感させるために、板書やワークシートで雅楽に対する最初の考えと学習した後の考えを比較させることで自分やみんなの考えを振り返らせ、自分と日本の音楽との関わりについて意識することができるようにする。	

